



大分県立竹田高等学校  
関東同窓会  
報

第17号

発行者・会長 長吉 泉  
編集者・委員長 神田 清  
発行所・関東同窓会事務局  
〒100-0014 東京都千代田区  
永田町2-4-11フレンドビル7F  
電話 03(5251)2730  
FAX 03(5251)2750

印刷・佐伯印刷株式会社

### 幹事会報告

## 平成十年度 関東同窓会総会開催等 今年度運営方針を協議

#### 秋の幹事会議事経過報告等

昨秋十一月二十日、神田学士会館において、長吉会長以下役員、学年幹事二十名の出席と事務局渡辺五月さんを加えて定例秋の幹事会が開催された。

冒頭、長吉会長より新役員体制での活動開始に伴う引き締め、の気持ちと各位への協力要請、昨年総会・懇親会が極めて盛大裡に終了したことに対する当学年幹事さんへの労いの言葉、更には母校における百周年記念式典出席を踏まえて、それが粛然と立派に挙行されたことと評価されるご挨拶があり、続いて個別議事に移った。

総務企画より第十一回総会・懇親会の結果報告と今年度のそれに向けての提案があった。総

幹事長 西 誠(昭30年卒)

会当日の会計収支が前年比で好転し、維持会費収入よりの補填額が減少した外、当年度第十二回総会が七月十一日(出)に新宿小田急センチュリーハイヤットホテルで開催されることが改めて承認された。次回よりプログラムに竹田高女の校歌を掲載し、譜面も確認することが要請された。また、維持会員の状況が昨年十一月一日現在で三九二名四六六口であり半年間増減同数の横這い状況であること、維持会費未納者に対する督促結果も報告された。

続いて組織・名簿・広報各委員長よりそれぞれ当面の提案があり、学年幹事の網羅充足、特に女性幹事の登録、若年層の掘り起こしを行う外、年次別登録会員数と宛先住所不明者数の開

示があった。

広報委員長よりは、昨秋発行の臥牛16号の概要と当17号の編集ポイントが表明された。また、「会員の声」欄設定の要望があった。

佐藤副会長は、昨年、県人会県立高校同窓会連合会の代表に就かれた。

会員の計報に伴う弔慰金の件は、これまで基準を設けず、都度柔軟に対応するやり方が東京地区では馴染むということでしたが、今回、事務局提案で一応の内規として、ご香料は取り止めて、一定の基準の供花もしくは弔電と合わせて会報臥牛に計報を掲載し弔意を表すると云うことで承認を得た。

それから、毎年秋に開催される竹田会に合わせて当日の午後、地元有志と関東同窓会を母体とする在京有志との間で、観光竹田、文教竹田の活性化を考える会仮称「竹田を愛する会」を設け、毎年定期的に協議を重ねることになり、幹事会で報告した。翻って、我が関東同窓会の活



「運営基本方針を述べる」長吉会長



高宮相談役より「貴重なご提言」



定例の会場

力の維持向上は、一に懸かっている。総会参加への求心力にあり、それには、現在六十名前後の女性参加者を百名目標にする。

総会と懇親会の  
ご案内

乞ご期待!

第十二回

関東同窓会

日時

平成十年七月十一日(出)

受付 AM十一時

場所

センチュリーハイアット

●総会 ●懇親会  
企画

当番幹事

第九期(昭32年卒)

第十九期(昭42年卒)

一、総会

・会務会計報告

・監査報告

・新年度の方針他

二、懇親会

当番幹事さんによる余興大会他

尚、会場は地域別に椅子席を準備。先輩後輩

の交流にご期待下さい。

企画委員長

匂坂 慎輔



# 創立100周年を迎えた母校 誇り高き伝統を継承 豊かな人間性を培う

## 更なる飛躍を



校長 久山 征三

秋の気配がようやく濃くなつてまいりました本日、竹田高等学校創立百周年記念式典を挙げるにあたりまして、県教育委員新堂英夫先生をはじめ、各界から多数のご来賓の方々のご臨席を賜わりまして誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

顧みますと、本校は明治三十年に大分県大分尋常中学校竹田分校として開校され、明治三十三年に独立し、大分県竹田中学校となりまして、その後、昭和二十三年の学制改革により、県立竹田中学校・県立竹田女学校及び県立竹田商工学校を統合して、大分県立竹田高等学校と改称し、現在に至っています。

本年は竹田分校の創立以来満百年を迎え、ここに記念式典を挙げる事になったわけであり、本校にとりまして、誠に慶賀にたえないところであります。

高校設置前の卒業生は竹田中学校が三、四三〇名、竹田女学校が二、九三〇名、高校設置後は平成九年現在で一七、〇三六名、合計しますと卒業生の総数は二四、〇九六名となり、本校は県下でも有数の同窓生をもつ高等学校であります。

一世紀の間、幾多の俊秀を世の中に輩出してきました。彫刻の朝倉文夫さん、造船学の青木保工学博士、醸造の黒野勘六農学博士、会社経営の里見雄二さん等。現在でも実業界のリーダーとして各界各層に多くの卒業生が活躍されております。このことは本校の誇りであり在校生にとってよい目標となり、刺激になっていきます。

ここで本校の現況を紹介いたします。校訓「自律自尊」「進取研鑽」「和衷協同」の三ヶ条をまもり、光輝ある伝統のもと、創立以来「文武両道」の精神を継承しています。生徒の数の最も多かったのは昭和四十年の一、六四〇名でしたが、現在は一学年五クラス計一五クラスの六〇三名と生徒の数は減少しています。生徒のほぼ全員が大学進学を希望しており、とりわけ国立大学志向が強くて本年の国立大学合格率は過去最高となり進路指導はよい成果を上げました。「今こそ青春/さあ出番/だから全力/」を学校のスローガンとして、個々の生徒の出番を大切に、「生徒の個性の伸長」並びに「望ましい人間関係の高揚」のため特別活動の充実をはかっています。部活動では全生徒の八四%、その六四%が運動部に所属し、七限補習等で練習

時間の制約があるが「短時間で効率の良い練習」を心掛け各部とも良い成果を上げ、学校全体に活気が漲っています。

文字通り「文武両道」普通科進学校として発展を遂げています。

創立以来今日までの一世紀の間、世の中は必ずしも平穏でない政治・経済の情勢の中で、本校の教育に確固たる地歩を築いて下さいました歴代校長をはじめ、教職員、卒業生、関係者の皆さんに対して深甚の感謝を申し上げる次第でございます。

山紫水明の我が地域も過疎が進み、人口が減少し、往年の活力に乏しい面がでてきました。しかし、このときこそ、地域の人材育成のため本校を充実・躍進させることは、地域が活性化するための大きな役割を果すこととは言うまでもありません。私達教職員・生徒一同は百周年という節目に当って、単なる通過点とせず、今一度先輩の皆さんの築いた流れを見直し、本校の伝統をさらに高揚するものとし、輝かしい未来に引き継がれる礎となるよう一致団結して努力精進していく覚悟でございます。

おわりに、本校育成のため絶大なお力添えを賜りました県当局・県教育委員会をはじめ関係機関、地元の方々に対して、深甚の謝意を表するとともに百周年に当たり、お寄せ頂きました同窓会・PTA・学林会・歴

代教職員・生徒諸君など関係の皆さんのご協力に対して厚くお礼を申し上げます。御列席の皆様のお多幸と御健勝を祈念いたしまして私の式辞とします。

平成九年九月二十四日

## 二十一世紀へ 弛まざる前進を



同窓会長 田北 和義 (昭18年卒)

明治三十年四月二十七日、大分尋常中学校竹田分校として竹田市川下七里の岡藩旧米蔵跡に開校して一世紀、年々校運隆昌し、輝かしい伝統を築いてまいりました事を心から喜ぶものであります。百周年記念事業として、無償給付の奨学資金の創設、百周年記念誌の編纂、施設設備費の設定、同窓会名簿の発行等を行います。招待試合、臥牛城祭等学校あげての諸行事、記念式典等は9月24日を中心に実施いたします。

募金については各期、各地区の役員・世話人の方々の努力によってほぼ目標の五千万円は達成できそうであり、記念誌も多くの方々の寄稿を得ました。厚くお礼申し上げます。藩校修道館の伝統を汲む本校



は「質実剛健」が校訓であり、剛健敢為の気風は「気力・闘志・根性」の現生徒会の信条にまで継承され、二万四千人の同窓生の心情の根底に息づいております。百年の昔、本校開校のため奔走された郷土の先哲偉人に対して、深甚の謝意を表するとともに、その功績を永く称えたいと存じ

ます。同窓各位には市井にあつて後輩達に胸襟を開き、心温かく誘掖して下さいようお願い致します。母校竹田高校が百周年を機に、一大ルネッサンス運動を起こして二十一世紀に向かって大きく羽ばたいて下さることを祈念いたします。

そして志を大きく持て」と言われしました。先生とは、祖母山や、阿蘇の根子岳に登った思い出もあり、皆さんも、時には高い所に登り、目先の事にクヨクヨする事なく、浩然の気を養って下さい。

必要なのは友人のありがたさです。必要な時の友こそ真の友であります。私は幸いにそのような友人を此の時代に得て、永い間、励まし合い、支え合つて来ました。皆さんも良き友人を持ちつづける事をおすすめします。

# 母校創立百周年の「絆」

## ①先輩はかく望み

## ②後輩はこう応える!!

平成九年九月二十四日

## 新しい時代に 生きるため



阿南 惟正  
(昭26年卒)

竹田高校創立百周年、まことに  
おめでとうございます。私は  
昭和二十六年三月に卒業した竹  
高三期生であります。昭和二十  
二年、私達が旧制中学三年の時、  
創立五十周年を祝った記憶があ  
ります。それからすでに、五十  
年の歳月が過ぎたかと思うと、  
感慨無量のものがあります。

私達の時代は、丁度学制改革  
により新制高校が発足した時期

でした。又、終戦直後で、外地  
から引揚げて来た人、日本各地  
から移つて来た人も多く、その  
人達と地元出身の人達が親しく  
交わり、或いは切磋琢磨した時  
期でもありました。私自身は、  
日制中学二年の時に転校して来  
て、約五年間を過ごしましたが、  
当時を振り返つて、竹田におい  
て、本当に良き師、良き友に恵  
まれたと感謝しています。特に、  
経済環境も厳しく、価値観が大  
きく転換する中で、私達を指導  
して下さいました先生方の御苦労は  
大変なものだったと思います。

そのお世話になった先生方の中  
から、一人だけ懐かしい思師につ  
いて、お話ししたいと思います。



先輩阿南惟正氏の講演に傾聴する在校生一同



に参列し、あらためて百年の歴史の重さを痛感しました。

貴方達も、此の美しい自然の中で育かれた純粋な気持ちを、何時までも持ち続けてほしい。そして、此の伝統ある母校で学んだ事を誇りとして、これから

の人生に臨んでほしいと思います。

竹田高校が、今後ますます発展する事を祈ってやみません。

平成九年九月二十四日  
竹田高校百周年記念講演より  
竹田高校三期生  
元 新日本製鐵(株)副社長  
元 太平工業(株)代表取締役社長

## 新たな一歩へ 向かって



生徒会長  
広瀬 崇史

「竹田高校創立百周年」これは想像以上に長く、素晴らしく、重みのあることです。今から百年前と言えば、例えば、歴史の教科書でしか知らない日清戦争があったり、国語の教科書の中でしか知らない、夏目漱石や森鷗外などの偉人が実際に活躍していた遠い時代です。このことか

らも竹田高校のこれまでの道な道のりをうかがい知ることができません。この長い歴史と伝統の道のりの中に、自分が含まれるという事、とりわけ百年という記念の時に立ち会えるという事を心から幸せに感じます。「こんなに多くの卒業生が訪れる学校は珍しい。」ということ

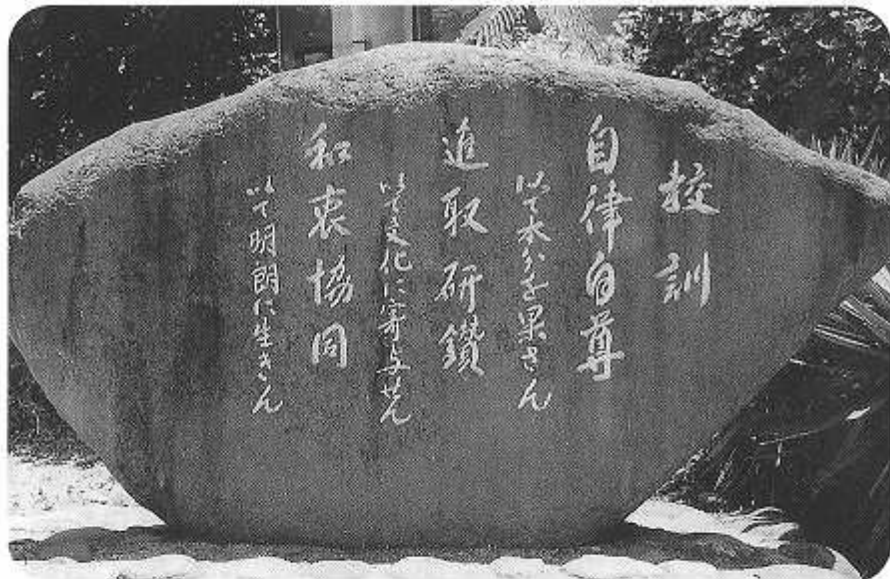
聞いた事があります。竹田高校を愛する気持ちと団結の強さはストームという他の学校にはない独特のものでわかります。それだけ卒業生の方々の高校時代の生活が思い出深いものだったのでしよう。二十一歳の若さで天折した、本校出身の歌人に徳田白楊という人がいます。「白楊」という名前は、病める体でありながら本に没頭し、図書館の前で友と輝ける将来を語り合った、そのそばにあったポプラの木にちなんで付けられたそうです。

この学校のあらゆるもの、あらゆる場所に「心」が刻み込まれています。入学式、初めて教室に足を踏み入れたとき、何げない瞬間、その心に包まれるのを感じます。

私たち自身も、日常の高校生活の中で、将来の夢を持ち、部活動で勝利のために泥にまみれ、挫折し涙を流し、友と語り合うことで励まされ、臥牛祭で大勢の生徒が一体となってストームに躍動し、というふうには沢山の思い出を今一生懸命に作り頑張っています。「質」は多少変わっ

たかもしれませんが、「実」である心は昔と変わりません。竹田高校の歴史と伝統は、ただいたずらに時をかきねたのではなく、燃え立つ心がいくつも積み重なっているという事です。だから今、百周年の区切りを迎えるというのは重く素晴らしいことなのです。

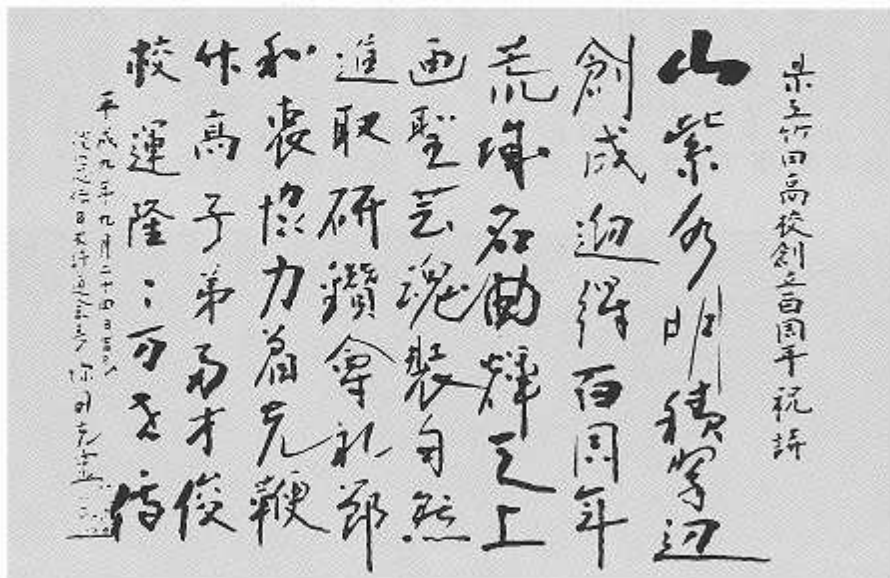
百周年という年は、これまでの竹田高校の歴史・伝統を振り返り、改めてその素晴らしさを実感するよい機会であると思います。ただ、それは全ての集大成ではなく新たな始まりだと思えます。「自律自尊」「進取研鑽」



校訓「自律自尊……」を刻んだ石碑

「和衷協同」の校訓のもと、これからも心を震わせ、沢山の思い出を作り、先輩方の歩みも大切に保管しながら竹田高校が更なる飛躍を上げられるよう、新たな一歩を踏み出してゆく所存です。これからも、この竹田高校を私たちと共に愛していただく下さい。

平成九年九月二十四日



「記念詩吟」淡窓伝光 流宗家 深田光靈(元校長)



「私の町竹田」(P7参照)を紹介する後藤浩一氏



燃える!!

# クラス会・同期会

## 古稀同級生、

### 雪の八甲田に集う

前田 健(昭20年卒)

平成九年十月十三日、快晴の羽田空港青森行き待合室に第四十五期会山岳友の有志一五名が集合した。この会は還暦記念の富士登山以来、毎年一回の登山が七回を数え、古稀記念に八甲田連峰を選んだものである。現地は初雪が例年より早く、登山道に入ると一面の銀世界、膝まで没する雪道を霧や雪で視界を遮られ、明治三十五年、この地で起きた遭難事故の昔が偲ばれ緊張の数時間であった。目標の大岳(一、五八五メートル)への縦走を諦め、赤倉岳(一、五四八メートル)登頂に止めて引き返した。山に別れを告げて、十和田湖、奥入瀬溪流へと足をのびしたが、こちらは山と打って交わって陸奥の錦秋が眼前に展開して、自然林の景観を存分に満喫することができた。

十五日夕刻、羽田空港近くの宿に到着、都内在住の同級生も駆けつけて、一段と盛り上がったミニクラス会が開かれ、校歌「あかつき早く」の合唱が深夜まで続いた。

今年は大菩薩峠に登ることと決定した。



旧制竹田中学校第45回卒の古稀同級生

## 竹高25会東京大会に参加して

吉弘 央(昭25年卒)

竹高二十五年卒の最初の同級会は思い出深い魚町の吉甚で行われた。以来三十五年間、十数回、会場も大分、関東、関西をもち廻り、五年毎に記念大会を竹田で行っている。25会の規約もできた。昭和十九年に竹田中学に入学した者及び昭和二十五年に竹田高校を卒業した者を会

員と定め、定期的に会合をもち、親睦を深め相互扶助を図ることが目的とされている。私たちは、昭和十九年に竹田中学に入学、学制改革により、同二十三年五年生の時、高校二年に編入された。制度上は男女共学となったが、不幸にも、学ぶ校舎は別々、女子と机を並べることがはなかつた。従って同級会と言っても、旧制中学中心の男子だけである。規約の上から女性も、と言う声があり、五十周年記念大会を機に、参加を呼びかけようと思っている。

今回の東京大会は、三度目と言うことで、気楽に参加することができた。唯、東京大会を企画し、精力的にお世話を頂いた栗生君が、大会寸前に亡くなられ、お会い出来なかつた事は、誠に残念でなりません。生前のご苦労に対し心から感謝申し上げますと共に謹んでご冥福をお祈りいたします。

同級生とは、いつ、どこで会っても懐かしい。卒業十年振りにも再会する友あり、昔の面影を見つければ、懐かしさもひとしお。秋重君のような遠方(函館)の友にも会えたし、酒と共に想い出に花を咲かせ、我を忘れて一夜を過ぎた楽しい大会でした。人生百年、お互いに健康に留意し長生きをしよう。平成十二年は25会五十周年記念大会。元氣な顔で再会することを誓い合い散会した。



竹高25会・東京大会

## 竹高26会 湯布院に80人集まる

宮崎寛一郎(昭26年卒)

昭和二十六年に竹田高校を卒業した、新制高校三回生の同期会・26会の全国大会が平成九年九月二十一日から二日間の日程で湯布院町のホテル山水館で開かれた。今回は母校の創立百周年を記念しての開催。関東、関西をはじめ全国各地から八十人が集まった。中には、その朝、由布岳に登って来たという元氣者もいた。

幹事の稲生茂子さんの司会で開会、まず恩師や級友の物故者四十数人に黙とう、冥福を祈ったあと、高山茂美26会会長があいさつ、永嶺勝司大会幹事長が歓迎のことば、続いて名古屋の佐藤和範さんが乾杯の音頭をと



竹田高校創立100周年記念竹高26会・大分大会総会

って開宴した。アトラクションでは木部ヒサエさんが舞踊「高砂」を披露、酒を酌み交わしながら戦後の混乱期の苦労話や孫の話に花を咲かせた。宴たけなわとなったところで、野仲製生さんの指揮で校歌や荒城の月を合唱、長吉泉竹高関東同窓会長の発声で万歳を三唱、再会を約して閉会した。二次会は別棟の「イビスサゆふいん」を借り切って開き、カラオケなどもまじえて深夜まで大いに語り、歌った。

翌二十二日は地ビール館で朝食、湯布院を散策したあと、貸切バスで長者原、大観峰、久住高原などをまわって初秋の風情を満喫、竹田市で散会した。またゴルフ希望者は九重カントリークラブと湯布高原ゴルフクラブでプレーを楽しんだ。



# 竹菁会

## 四十五周年記念大会

後藤 浩一(昭27年卒)

平成九年九月二十二日、昭和二十七年竹田高校卒の同窓会が竹田市ホテル岩城屋で開催された。

恩師、吉良達郎・都留嶺芳・糸永正武・小松一雄・田北和義・木許博・首藤裕子(ご年齢順)の七先生及び現校長、久山征三先生のご列席を仰ぎ、会員も男女ほぼ同数の百二十余名が参加した盛大な全国大会である。

時、恰も母校創立百周年記念式典を二日後に控え、地元のホテルを確保出来たことは、竹田・大分支部の一年前からの努力と相俟って、誠に僥倖事であった。

当日は、午後四時から一時間の式典の最後に私事乍ら、小生の先導での校歌斉唱の後、物故者(平成四年十一月以降)への黙禱を挿んで、第二部の懇談会が午後五時から始まった。

飲む程に酔う程に大分弁が飛び交い、略五十年前の少年少女の再現をみた。予定のアトラクションの後にはカラオケ大会で声を競う。想像も出来ない位の上手が居る。夜な夜な多額の月謝を払ったものと推察された。万歳三唱、閉会の挨拶後何時頃就寝したのか記憶が無い。おそらくは飲み過ぎ、喋り過ぎ、歌い過ぎの結果であつたらう。

翌二十三日は二班に分かれ、Aコースは観光バスの旅(竹田―阿蘇―湯布院―長湯)・Bコースは阿蘇やまなみゴルフ倶楽部でのゴルフコンペである。

当夜の宿泊は両コースが合流し、会員経営の長湯温泉宿である。二日目のこの日は一同益々打ち解けて宴はこれ又終夜迄続いた。

又々私事になるが、湯布院での昼食時、小生の好物茶碗蒸しが出、「これがあつたら飯は要らない」と言ったら、席の前後から即座に七椀の供出を受けたのだが、夕食にも茶碗蒸しが供され、またたく間に七八椀が小生の食膳前に並んだ。某君からは証拠写真を撮っているよ、と脅迫されている。半分は義理食いしたので、当分は、卵は見るのもいやである。

二十四日早朝、ホテルの車で母校迄送って貰い、九時二十分の受け付けに悠々間に合った。百周年記念式典に付いては今回の手記の主題では無いので割愛するが、別の機会があつたら書きたいと思つている。因みに、関東同窓会からの出席者は、長吉会長・神田広報委員長・佐藤副会長及び小生の四名であつたこと、又、竹田商工会議所大ホールで開かれた祝賀会でのアトラクションで田北実行委員長の「ご下命で、下手な俗曲「木遣りくずし」を披露し、盛り上げに若干寄与できた?のではないか、

と思つた事を付記して、筆を置くことにする。



45周年記念大会(於 ホテル岩城屋)

## 平成九年度竹田会 今年も大盛會裡に 開催される

平成九年十一月十四日(金) 於 中野サンプラザ  
田部 修士(昭42年卒)

関東竹田会が昨年十一月十四日午後六時より、東京・中野サンプラザにて開催された。

案内状を千四百十人に出し、約百二十名が参加された。ご来賓として阿南竹田市長、衛藤市議会議長、内川前議長、加藤竹田商工会議所相談役、姫野会頭、田部副会頭、菅竹田市観光協会長、高野副会長、板井竹田市商店街連合会理事長、後藤副理事長、佐野大分縣人社編集長を迎え盛大な会となった。

初めに里見会長が「本竹田会は、なんらかのかわりを持つ者の集いで開かれた会である」ことを述べられ、「来賓に感謝、「参加者全員が親睦・友情を深めていただきたい」と挨拶された。続いてご来賓の阿南市長から、河川改修、水上舞台等地元の文化遺産を生かす観光振興計画に関する報告を交えた挨拶を頂き、姫野商工会議所会頭からは、「二十世紀ヒット曲ベスト十五へ荒城の月が入選するよう参加者への協力要請があり、「行動する会議所を実現する」と力強い挨拶があつた。

昭和二十七年から当竹田会へ参加されている工藤幸男氏(84)の音頭で一同乾杯、懇親の宴に入つた。桑島氏の司会で会は進行し、遠路竹田からの来賓の自己紹介で会は盛り上がり、恒例となつた福引き抽選会で、長芋、焼き米、佃煮、かぼすジュース、荒城の月等数々の郷里の産品を手にするたびに会場に歓声が広がつた。



里見会長から謝辞



阿南市長を交えての「荒城の月」大合唱

郷土の特産品が盛り「たくさん」な



恒例の福引風景

最後に荒城の月の合唱に故郷竹田を偲びつつ、郷里のお土産を手に雨の中へ散会していった。

未来の素材に、



日本パーカライジング株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1 TEL. (03)3278-4357



# ふるさと名所紀行

～熊沢蕃山と竹田地方～



原尻の滝の上に建つ緒方井路記念碑



緒方町原尻の滝



岡城三の丸にある蕃山頌徳碑

「私の町 たけた」 作曲 伊藤 信一郎  
作詞 服部 克久

Andante (♩=100) やさし

「私の町 たけた」

私の町 たけたは 城原井路を作ること  
で水田の拡大充実を図った。現在  
原尻の滝の上と城原には、それぞ  
れ記念碑が建てられている。

一方、植林では竹田の城原山、  
三宅山、緒方町柚木の巢石山には  
桧を植樹。竹田の戸上、戸下、長  
谷、周里などの低湿地には杉を植  
えている。

平成三年十月に竹田市が主催し  
た「熊沢蕃山没後三百年記念事業」  
に講師として招聘した岡山大学名  
誉教授の宮崎道生先生は左記の短  
歌を詠まれ、豊かな自然環境と良  
き伝統を受け継ぐ竹田地方の風土  
を心から賞賛されていた。

辛未霜月三日

「山を治め川を拓きし大人の業  
跡経廻ぐれば遺徳身に沁む」

私の町に春来ませんか  
城跡に桜咲いて  
めぐる盃花のひとひら  
そんな町のそんな町の春です

私の町に夏来ませんか  
清き流れの音もやさしく  
かざりきれいな七夕まつり  
そんな町のそんな町の夏です

私の町に秋来ませんか  
月影に城跡うかび  
あなたと歩く古い家並  
そんな町のそんな町の秋です

私の町に冬来ませんか  
遠き山脈雪げしき  
門におかれた姫だるま  
そんな町のそんな町の冬です

伊藤 信一郎 作詞  
服部 克久 作曲

〔滝廉太郎生誕百年記念歌詞集の部 最優秀〕

岡藩の蕃山翁遺跡を歴訪して

佐藤 毅士 (昭28年卒)

熊沢蕃山は、江戸時代最大の経世家であることは同時代の荻生祖来が認め、今日まで先学の研究された成果は多くの文献と事跡によって明らかにされているが、竹田地方に於いても治山治水の業績が厳然と残っているのである。岡藩中興の祖と言われた五代藩主中川久清は、特に地域の産業振興に力を注いでいたので当時世に名声の高かった蕃山を招聘したのである。これは久清が蕃山の主筋である岡藩主池田光政と親戚関係にあり、幕府の重臣、有力諸大名に交わって特に知遇を得ていたからである。又、実弟野尻藤助が岡藩の重臣として久清に仕えていたこともあって、藩政改革のために来岡したのである。

先ず治水では緒方町原尻の滝附近を視察し、緒方井路の開きくを指示、さらに城原井路を作ること

## 私の町竹田

伊藤 信一郎 作詞  
服部 克久 作曲

〔滝廉太郎生誕百年記念歌詞集の部 最優秀〕



# 声



## 女学校の校歌も

### 歌つて下さい

川合 文彦(昭30年卒)

臥牛第6号で、田部洋子さんが「女学校の校歌も歌いたい」というご提案がやつと実現します。田部さんは、文中「この同窓会の会員には、女学校出身者も多く居られるはずで、毎回の会の終わりに校歌を合唱しているが、旧制竹田中学校の校歌だけで、女学校の出身者には馴染みの無いものだ。そこで一つの提案だが、今では殆ど歌われることのない旧制女学校の校歌も、あのステージで歌わせて貰えないだろうか。……」今年七月の同窓会案内状に歌詞が掲載されます。これは組織委員会から働きかけました。

このたび、声の欄が設けられることとなり、ありがとうございます。臥牛第16号までには多くの会員からの原稿が寄せられています。因みに昭和三十一年卒以後の会員からは44人、延べ51本が掲載されています。この中には、要望・提案など、生の声が散見されます。この声を取り上げる作業と、その実現されるまでのお手伝いを行います。

「去年も今年も、私にとつては同窓会総会さままであった。逢えば、忘れかけていた竹田の方言が何の気兼ねなく自然に口から出てくるから不思議だ。これは毎年実施しているクラス会とは、少し違うようである。理由は、私には分らない。同窓生みんなの偽らざる気持ちを田部さんが見事に表現してくれています。」

ともあれ、今夜は柳亭市馬が、この季節にぴったりの酒呑「一人酒盛」を熱演し、満員の国立演芸場の客席を堪能させてくれました。市馬は、同窓会の宝だ。

(二月十七日夜記)

## 訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

大塚 義久様(昭31年卒)  
平成9年7月7日 没  
後藤 是隆様(昭30年卒)  
平成9年10月17日 没

## 詩歌・文芸

### 須賀 恵至

(昭27年卒・本名菅 恵至)

まごうなき老いが躰をめぐりつつ  
怒りばかりは華やいでいる  
握り返えされ人も車も塞ぎ止めて  
道の破片が運ばれおりぬ

## 掲示板

### ●貴方のスペース

## 割引航空券のご案内

同窓会員の河野さん(昭42年卒)から皆様方に航空券割引(35%)のご案内がありました。よろしかったら帰省の際等にご利用下さい。

例(片道) 東京一大分 16,600円  
東京一熊本 17,950円  
(JAL便限定、他の路線も有り)

期間 '98年5月6日～'98年7月末日  
連絡先 日本空輸(株) 銀座旅行センター  
所長 河野 吉光  
東京都中央区銀座6-11-5(鴻池ビル)  
☎03-3571-3811

## 会員の皆様へ お知らせ!!

### ◎第十二回

### 関東同窓会総会

平成10年7月11日(出) 予定  
受付 AM11時～  
・センチュリーハイアット

### ◎母校百周年記念誌

### 頒布のご案内

創立百周年記念誌の購入申し込みについてお知らせします。

先般、募金者の方々には同窓会本部より申し込みの案内をしましたが、募金者以外の会員には案内していませんでした。ご希望の方は購入申し込みを受け付けていますのでご連絡下さい。

### 購入希望者連絡先

関東同窓会事務局(渡辺迄)  
TEL 03-5251-2730  
FAX 03-5251-2750  
価格 一冊七千円  
(送料諸経費込)

### ◎竹田会

平成10年11月20日(金) 予定  
PM 6時～  
・中野サンプラザ

## あとがき

編集の在り方に就いて数々ご意見を戴き、この度「臥牛一七号」に、①「声」…会員の自由闊達なご意見欄、②「掲示板」…会員の為のスペースを新設致しました。積極的にご活用下さい。

### ●お詫びとお断り!

42年卒クラス会記事がスペースの都合で甚だ勝手ながら次号掲載に成りました。ご容赦賜りお断りを申し上げます。

### ●池田広報委員の異動!

この度、藤沢薬品(株)仙台支店にご栄転されました。何かとお世話になりました。ご自愛下さい。

### ※「投稿」をお待ちしています!!

若い世代の皆様への「クラス会情報」や「特別寄稿」等々ご投稿を特に期待しております。



### ・投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

### ・連絡先

〒279-0022  
千葉県浦安市今川2-10-31  
神田 清 宛(広報委員長)  
☎047-354-9456